

消化器・肝臓センター

NEW-す

NO. 75

2021.10



胃がん治療ガイドラインが新しくなりました



胃癌は、本邦でも罹患率の高い悪性腫瘍のひとつであります。低侵襲治療法の開発や薬物治療の多様化も進むなか、胃癌治療における施設間格差を少なくし、患者の予後改善を図ることを目的に、2001年に胃癌治療ガイドラインの第1版が出版されました。その後、概ね3年を目途に改訂され、つい先日2021年7月に第6版が出版されました。

ガイドラインには、外科治療、内視鏡治療、薬物治療、緩和的治療についての教科書的解説(治療法)と、臨床的に重要なクリニカルクエスチョン(CQ)に対する推奨文や解説が記載されています。

第6版の主な改訂点



- 各治療に対するCQが32項目に増やされた。
- 前向き研究結果に基づく、近年増加傾向にある食道胃接合部癌に対する治療が記載された。
- ロボット支援下手術に対する推奨度も初めて記載された。
- 免疫チェックポイント阻害剤についての最新の知見に基づく解説が記載された。

改訂前であっても、新たなエビデンス(科学的根拠)が判明した場合は、胃癌学会より速報としてコメントが発表されるので、常に新しい情報が得られます。

ガイドラインには、標準的治療といった記載も見られます。標準的治療とは、エビデンスに基づいて、現在利用できる『最良の治療』であると証明されているものであります。より効果の高い治療法やより侵襲の低い治療法を探索し、エビデンスを作り新しい標準的治療を開発することを目的にしたものが臨床研究となります。

我々も、胃癌治療ガイドラインをベースに治療にあたり、安心・安全に治療を受けていただくよう努力するとともに、大阪消化管がん化学療法研究会、西日本がん研究機構や大阪大学消化器外科共同研究会といった研究グループにも所属し、その臨床研究にも参加し、胃癌治療の向上にも寄与するよう努めております。



市立貝塚病院
TEL: 072-422-5865

外科 高山 治